



学ぶ=元気!



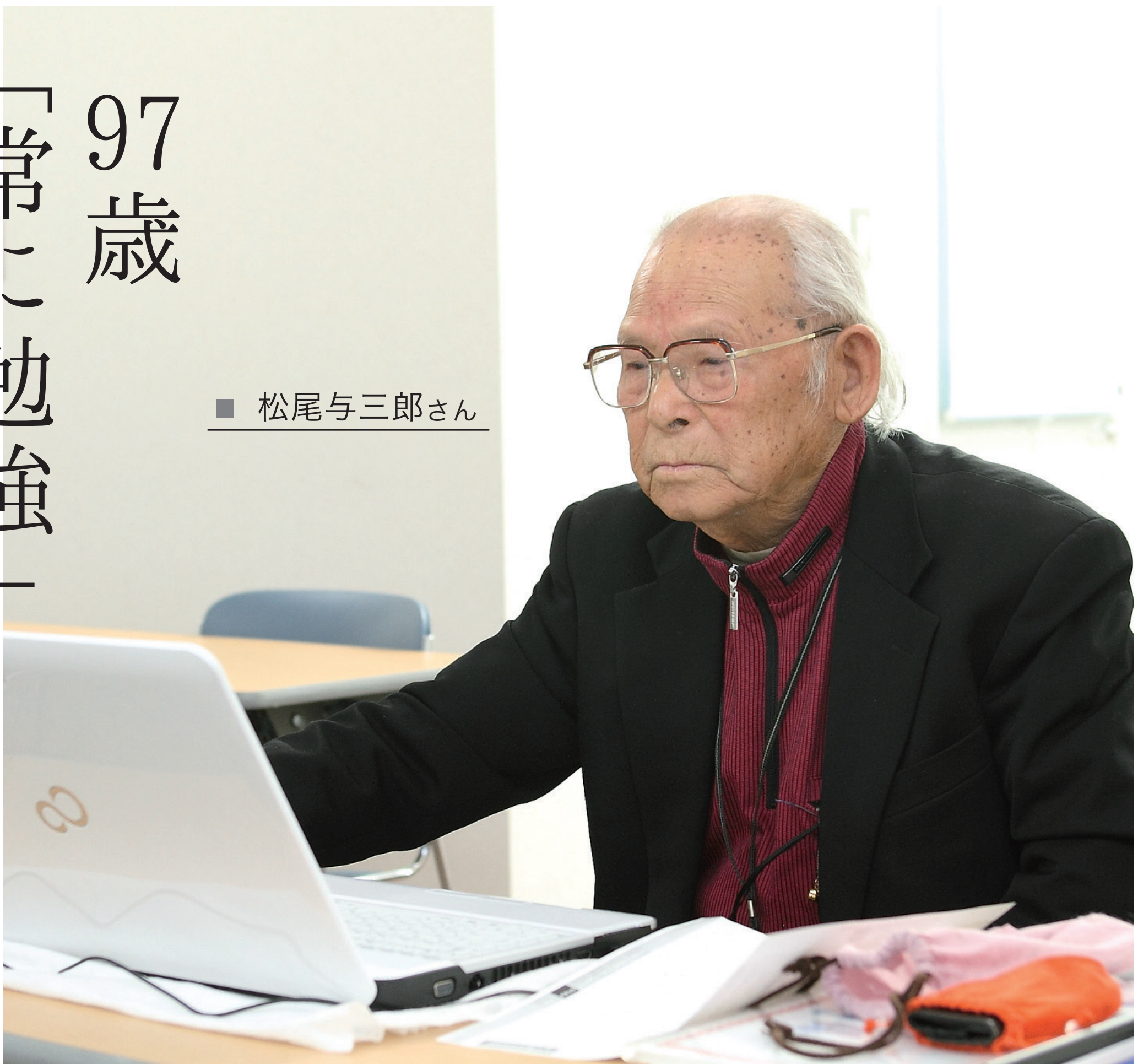
「勉強」という言葉を聞いただけで気が重くなる人も多いと思う。でも、押しつけの「勉強」と自発的な「学び」は全く違う。自分の興味があることをとことん追究するとき「学問」の「学」は「楽」になる。

今回の特集では佐賀新聞文化センターに通う4人の方を通じて、学ぶことの魅力をレポートした。受講生最高齢の松尾与三郎さんは97歳。週に4日、おしゃれな帽子をかぶりエスプレッソ教室へやってくる。休憩時間も松尾さんの周りには人が集まる。「学ぶ」ことは自分を常に進化させようという気持ちがないとできない。前向きな好奇心こそ健康の秘訣である。

フランス料理が大好きでフランス語を学始めた光富佐和子さんは、本当に楽しそうに授業を受けていた。目的がはっきりしている分、どんどん前向きに吸収することができる。茶道を始めた岩村麻世さんは、受講仲間との交流に魅力を感じている。家に閉じこもっても「勉強」はできるが、一緒に学ぶ友人の存在があれば「学び」はより充実する。英語教室に通う渡辺秀征さんは外国人と共同作業することで、異国語でのコミュニケーションの面白さに気づいたという。学校での勉強とは違う、生きた体験が自分の方向に気づききっかけとなった。

「学び」は決して退屈なものではない。自分の中から出て来た興味と一緒に学ぶ仲間がいれば。

あなたの「学び」
エスプリで
見つけよう！
詳しい講座の内容は P108 ~ を
ご覧ください。



■ 松尾与三郎さん

97歳 「常に勉強」

松尾与三郎さん97歳。畑仕事をしながら「平家物語を愉しむ』『聴く』物語」など佐賀新聞文化センターの4講座のほか、社交ダンスの個人レッスンやウクレレ教室にも通う。さらに病院の緩和ケア病棟でボランティアとしても活躍する忙しい毎日だ。

火

曜日は「中高年のためのゆっくりパソコン講座」。授業開始の30分以上前には教室に入り、自宅から持ってきた白いパソコンをセットする。しばらくすると画面には楽器を演奏する人の姿が。「ボランティアに通っている病院で行われたイベントを撮影したので、映像をみなさんにお渡ししよう」と

思って」。松尾さんは張りのある声で教えてくれた。

10時半、講座が始まる。今日はキーボードで文字を入力する練習。一文字一文字丹念にキーボードを叩く。入力の方が分からない文字があると、ゆっくりとテキストを開き、入力早見表を確認する。そして、またじっくり確実に打ち

こんでいく。「ボケないためにパソコンを始めました。女性をエスコートするぐらい元気でなくちゃね。いずれは自伝を活字で出したいと思っています」と茶目つけたつぶりだ。

90歳までは自転車通勤

松尾さんは毎朝6時に起きて、新聞を30分ほどかけて読んだり、お経をあげた後、朝食を食べる。食後には自ら育てたモロヘイヤとお茶を粉末にしたものを飲む。9時には小城駅に自転車で向かい、列車に乗り佐賀へと向かう。「90歳までは片道1時間半かけて自転車通勤で佐賀まで来ていました」。佐賀駅

からはバスで中心街へ向かい、バス停からは歩いて教室へやってくる。火・金曜日は毎日、佐賀市内に。午後社交ダンスの個人レッスンや病院のボランティアなど大忙しだ。天気の良い日は畑仕事。アスパラなど野菜を育てている。収穫した野菜をときどき受講生仲間へお裾わけするという。晩ご飯は午後7時半ごろ。ビデオに撮った自分の社交ダンスのビデオを見て復習したりしながら過ごした後、午後11時ぐらいに就寝する。隠居とは程遠い毎日だ。

水曜日は「仏陀に学ぶ」。やはり30分前には教室に入る。取材した日は今年最初の授業。まずは新



年のあいさつから始まる。続いて授業の日程変更の話。松尾さんはポケットから携帯電話を取り出し、カレンダーを確認する。連絡事項が終わり講座が始まる。太田心海先生が仏陀の言葉を例え話を使って丁寧に解説していく。哲学的な用語分析などもあり、いささか難しそう。松尾さんはノートに丁寧にメモしていく。一時間で休憩。

先生と松尾さんの雑談が始まり、話題は戦時中のことに。

旧制中学行けず丁稚奉公

松尾さんは1915年5月21日、男7人女1人の4番目として生まれた。尋常高等小学校ではクラストップの成績だったが、家庭の事情で旧制中学へ行けず2人の兄に続いて売薬製造の丁稚奉公

出会い 大きな刺激に

へ行った。「なんとか勉強したかったので、授業料がいらす給料がもらえる横須賀の海軍通信学校を受験しました」。

見事に難関を突破し入学。「同級生は優秀で同じような境遇の人も多く、向学心に燃えていました。卒業後は長崎の針尾島通信所で2週間を過ごした後、1932年に中

国の旅順海軍無線通信所に赴任した。

4年後に横須賀通信学校高等科に入学。卒業まで3カ月というところで胸部肋膜炎を患い、横須賀海軍病院へ入院。1年近く休学した後、復学するが成績は当然芳しくない。「今思うとむしろ良かった。戦争では成績優秀者から順番に艦船に配属されていきましたが、3分の2以上が亡くなってしまった。人生の勝者必ずしも最終的に人生の幸福を得るといえずですね」。その後、佐世保航空隊の電信術教育担当時代に妻のツヤさんと結婚。3年半務めた後、南方警備第四艦隊旗艦「千歳」の電信室勤務を経て、茨城の土浦航空隊の予科練教育隊電信教員となる。「担当したのは10期の学生。卒業後、特攻隊の指揮官クラスになったものが多く、最も被害が大きかった」と振り返る。終戦は30歳のとき。インドネシア中部のセレベス島海軍司令部付電信長となっていた。抑留生活を1年間送った後、帰国する。

戻った日本は就職難の時代。農業をしながら職を探し炭鉱の無線技術者となるが40歳代後半で閉山。

その後、農協で働き定年退職した後、農業をしながら集荷場で働いた。

青春時代は戦争、戦後は就職難。衰えぬ向学心はそういう時代をくぐり抜けてきたからこそだろう。太田心海先生「みんなに慕われる人柄が素晴らしいですね。ときどき経験談を披露してもらうのが楽しみです。毎日のこと、畑仕事のこと、お孫さんのことなどを話してもらいます。生活の基盤である家族や親せきと親密であることが分かります。それが健康の秘訣なのではないでしょうか。また無線の仕事がされていたからか、アンテナを広く張り巡らし、新しいものを求める。長い間、培ったものが自然と出ていらつやいます」。

奥さんの死から立ち直る

木曜日は「民謡の心」。まずは「秋田大黒舞」。徳富二三枝先生の三味線に合わせ朗々と謡う。膝を叩きリズムを取りながら首をゆらす。かたわらには携帯用カセットレコーダー。先生の指導があると譜面にメモを書き入れる。出だしもバッチリ、大きな声ではっきり歌い上げる。



information

ボンソワール! フランス語初級

全10回

日時/毎週金曜 19:30~20:30
 受講料/12,600円
 (プリント代・テキスト代別途)
 維持費/1050円

◇詳しくはP108~のエスプリをご覧ください。

■ 光富佐和子さん

仏料理から語学に興味



「き」

っかけはフランス映画とフランス料理。メニューが読めるようになったら楽しいかな、と読んで習い始めました。光富佐和子さんは軽やかに笑う。通っているのは「ボンソワール! フランス語」講座。この日はフランス語を学ぶ上で高いハードルになりがちな発音の規則性について勉強していた。

アットホームな教室

先生が、フランス語ではHは発音しない、と説明。すると「HERMES (エルメス) もそうですよ」と即座に回答。先生が言葉カードを取り上げると躊躇せず発音する。アットホームな雰囲気、他の受講生も笑顔が絶えない。普段は病院で検査の仕事をしながら家事をこなす。車の中で語学テ

お店で親切にされる

光富さんは元々、人の話を聞くのが好きだという。「異業種の方の話など、自分の知らない世界のことがかかって面白いです。外国の人と話すのは、最も遠い分野の話が聞けるということ。習慣や宗教、考え方の違いなど思いも寄らないことに触れることができるのが楽しいですね」。

難しいのは数字の読み方。「70から規則性が分かりにくくて。60+10と言わなくてはけません。覚えるしかないんですが、なかなか大変です」。講座の合間にはおすすめのレストランの話なども出る。「レストランの人もフランス語を習っていることが伝わると、親切にしてくれます。内緒のレシピを教えてもらったこともあります」

夢はフランスに死ぬほど通うこと。「寒いのが苦手なので住むのはちょっと。でも南仏ならいいかな。次、どこの国の人に生まれるかは分からない。いろんなものを体験しないともったいないじゃないですか」。興味があることから始める学びは、本当に楽しそうだ。



information

中高年のためのゆっくりパソコン講座 [STEP2]
 全10回
 日時/毎週火曜 10:30~12:30
 受講料/12,600円
 維持費/1,050円

民謡の心
 日時/毎週木曜 10:00~12:00
 受講料/4,200円
 維持費/420円

仏陀に学ぶ
 日時/毎週水曜 10:00~12:00
 受講料/4,200円
 維持費/420円

平家物語を愉しむ ~「聴く」物語
 日時/第1、3金曜 10:30~12:00
 受講料/2,520円
 テキスト代3,500円程度
 維持費/210円

◇詳しくはP108~のエスプリをご覧ください。

休憩を挟んで、先生の指名で松尾さんが独唱することに。山梨県の「武田節」。受講仲間の手拍子に合わせて、堂々と歌い上げる。2番が終わったところで「腹いっぱい歌った」と終了。はにかんだ笑顔が少年のようだった。

徳富先生は「分からないところは質問されるし、ほとんど欠席もせず熱心に通っていらっしやいます。発音が良くてリズム感も抜群で節回しも上手。お腹から大きな

声を出すことも健康の秘訣だと思います。見習うべきところが多いですね」。

松尾さんが習いごとに本腰を入れるようになったのは、2001年、奥さんを亡くしたことがきっかけだった。「藤間流の名取の免許を取り、支えてくれたおかげで、息子たちを育てることができた。戦友会で一緒に全国を旅行したことが一番の思い出です」と感謝する。1年半の闘病生活を献身的に

支えた松尾さんは放心状態におちいった。「1年ぐらいいぼーっとなってしまう。奥さんを先に亡くすと、男はキツイですね」。これじゃいけない、と四国八十八カ所巡りの旅に出る。そこから仏教に関心を持ち、「仏陀に学ぶ」を受講した。一緒にシルクロードを旅行するなど親交を深めた仲間にも勧められたのが県高齢者大学だ。2年間、皆勤で卒業。高度な授業や課題、部活動などで大いに刺激

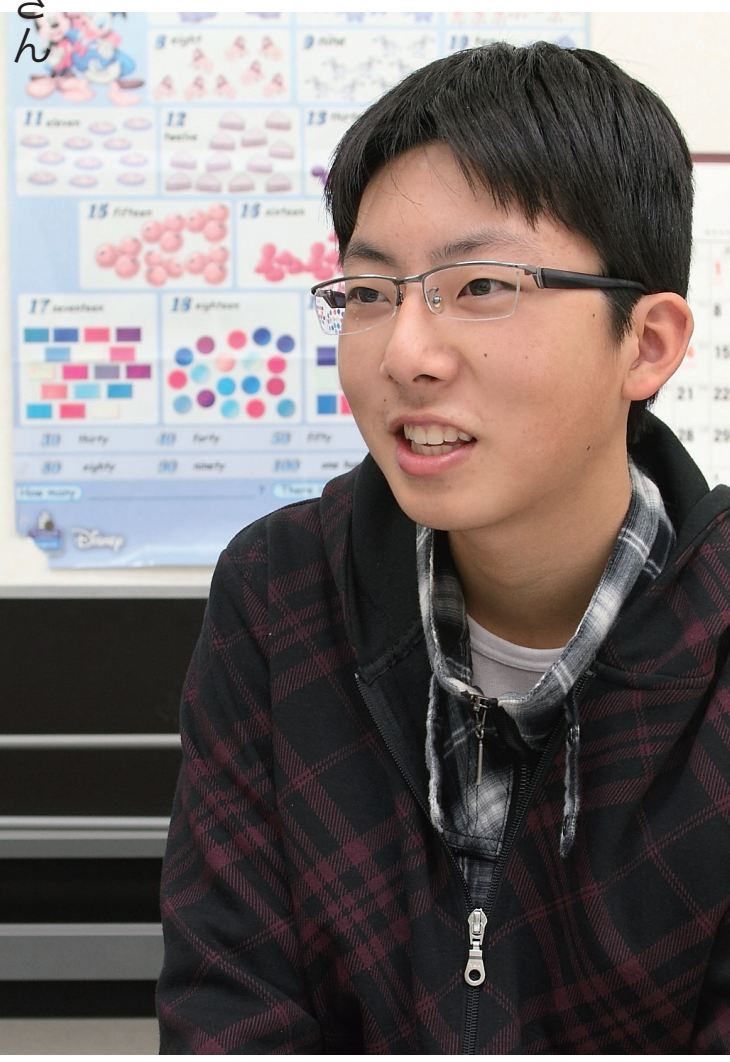
された。「頭がすっきりなって、すっかり変りました。いろんな人と合わせたことも大きかったです」。常に外に出て、たくさんの人とふれあうことにより、刺激を受け自らを高める。「新しいことを知るのには本当に楽しいですね。仲間の目標にされているので、100歳まで生きたいと思っています。そのためには常に勉強して、気持ちを高めていかないとはいけません。今が一番楽しいですね」。

ス

「ステップワールド英語教室」には小学校1年生から通っている。以前は福岡の教室まで行っていたが、合気道を始めることになり、自宅から近い「ステップワールド英語教室」に通うことになったという。「ときどきジョークが飛び出したり、先生が面白い。英語が楽しくなりました」と中学3年生の渡辺秀征

外国語で意思疎通 面白い

渡辺秀征さん



さんは振り返る。

中2で英検準2級

英語、合気道、書道、そろばん、学習塾。たくさん習いごとを経験してきた。「無理をしてきたことはありません。ちゃんと自分で決めてきました。今は英語と書道、学習塾に通っています。いろんなものにチャ

レンジするのが大好きなんです」と笑う。

最初は頑張ればどんどん級を取れて楽しかったという。書道は六段。英検は中学2年生のときに英検準2級を取得する快挙。「小学6年生で英検3級に合格して、それから何回も受験しました。途中、諦めそうになっただけ、先生たちに励まされてなん

information

ステップワールド英語スクール

対象/1歳~中学生
月謝/6,300円~8,400円
※週1回、年間44回のレッスン
※随時入会受付中

◇詳しくはP83をご覧ください。

岩村麻世さん

information

マナーから始めるお茶のお稽古(裏千家)

日時/第2、4金曜
19:00~21:00
受講料/2,520円
水屋料/1,000円/月
維持費/210円

◇詳しくはP108~のエスプリをご覧ください。

着

付けの教室に通って自分で着られるようになったので、着物姿になる機会を増やしたいと思っ始めました。これからは茶道を一生の趣味にしていきたいですね」と話す岩村麻世さん。「マナーから始めるお茶のお稽古」に通う。

日本文化を大事に

この日はお点前の指導。岩村さんが亭主としてお茶をたてる。手の運び方、茶筌の動かし方、お菓子の勧め方、先生が丁寧に教える。最後は襖の閉め方。細かい助言で岩村さん



趣味を通じた交流 財産に



の所作が見違えるほど華麗になっていく。茶道は日本文化を学ぶ総合芸術。「お茶だけでなく、掛け軸や器、生け花のことも教えてもらえます。日本人に生まれたからには日本文化を大事にしたいですね。」
習い始めて1年半。「佐賀新聞文化センターは信用度が高いので安心して始めることができました。初心者を中心にした教室なので入りやすかったです。経験のある受講生からアドバイスを受けることができ助かってます」。

事務職の仕事しながら教室に通う。大変な面もあるが「今しかない、と思ひ決断しました」。勉強が大嫌いだっただけという岩村さん。「大人になって勉強する機会が無くなって、初めて自分で学ぼうという気持ちになりました。歴史の授業は嫌いだったんですが、興味を持つとすっかり好きになりました」と笑う。

自然と心落ち着く

お茶の稽古をすることによって日常生活も変化してきたという。「ストレスを感じる時にも自然と心が落ち着くようになりました。これまでは旅行や買い物で発散していたんですが、。仕事場でも丁寧にお茶を淹れるようになって、美味しくなった、と言われたこともあります」。高校時代、カナダにホームステイしたとき、日本文化のことをあまり説明できなかったのが心に残っている。「お茶の勉強に励んで、いつかは海外で披露したいですね」。

とか頑張りました」。

一緒に学ぶ友人の存在も大きい。「中学校は違いますが小学生のときからずっと一緒にワイワイやってきたので、良い意味でライバルのような存在です。刺激されますね」。普段は会話中心だが、今は高校受験に備えてテスト対策に取り組む。柔軟な授業内容も「ステップワールド」の魅力の一つだ。

将来は小学校の先生に

今は異国語を使ってコミュニケーションを築くことに面白さを見出している。きっかけは中学2年生のときの経験。ステップワールドの先生からALT(外国語指導助手)グループが主催するチャリティーイベントのボランティアに誘われた。「協賛金集めから、ポスター貼り、会場の飾りつけまで、外国人と作業しました。最初はうまく話せなかったけど一緒に働くうちに英語できちんと伝えられるようになって。すごく嬉しかったです」。

将来の夢は小学校の先生になること。「2011年4月から小学英語が必修になっています。異国語でコミュニケーションすることの楽しさを伝えられたらいいですね」。